

# VRで修学旅行気分

印西中3年生

## 京都、奈良の映像堪能

印西市立印西中学校(鈴木祥仁校長)で、新型コロナウイルス感染症拡大で中止となった修学旅行を仮想現実(VR)技術を活用して疑似体験する「バーチャル修学旅行」が行われた。参加した3年生約90人は、専用アプリが入ったスマートフォンと連結したVRゴーグルを装着し映し出された映像を堪能。学校にいなから京都・奈良への修学旅行気分を味わった。

同校によると、修学旅行は昨年6月に2泊3日で実施する予定だったが、コロナの影響で今月6〜8日に先延ばししていた。ところが緊急事態宣言の延長が検討されて中止になった。多くの行事が中止や縮小を余儀なくされた3年生に大切な思い出をつくってあげたいと、バーチャル修学旅行を実施した。

生徒はバーチャル空間となった体育館で、VRゴーグルを着けて京都・奈良の観光名所巡りをはじめ、トロッコ乗車や保津川下りなどのレジャー体験を臨場感たっぷりに楽しんだ。富沢美咲さん(15)は「360度をぐるりと見ることができたので、奈良公園のシカが本当に目の前にいるようだった」と驚いた様子。

他にも京都の職人や旅館のおかみとオンラインでつないで伝統文化や作法を体験したり学んだりした。浅野健心さん(15)は「修学旅行に行きたかった思いもあるが、VRやオンラインなどコロナ禍ならではの企画で楽しめた。最後にみんなで思い出がくれた」と笑顔で振り返った。

